

開催日時：2003年3月8日（土） 13：30～15：30

場所：京都リサーチパーク 地下1階 バズホール

参加者数：委員11名、他部会委員3名、河川管理者18名、一般傍聴者76名

## 1 決定事項

- ・ 利水部会の部会長代理として榎村委員が決定した。
- ・ 各委員は、3/21頃までに提言および説明資料(第1稿)の利水部分をもとに、本日の資料3-3を参照のうえ、利水に関する論点および具体的な実現方法についての意見を提出する。
- ・ 河川管理者は、次回部会(3/27)までに、水需要に関する何らかのデータを用意する。
- ・ 4月中に1～2回程度部会を開催する方向で日程調整を行う。

## 2 審議の概要

部会長からのあいさつ及び委員の紹介

部会長あいさつおよび委員の紹介が行われ、部会長代理の選出が行われた。上記「1.決定事項」参照。

部会での検討事項およびスケジュール

資料1「淀川水系流域委員会 第18回委員会 結果概要(暫定版)」、資料2「テーマ別部会について」をもとに、今後の部会での検討事項やスケジュールなどについて説明が行われ、上記「1.決定事項」のとおり決定した。

淀川水系河川整備計画策定に向けての説明資料(第1稿)に関する意見交換

河川管理者より、資料3-2-1「説明資料(第1稿)質問の回答」、3-2-3「委員からの質問と回答」を用いて、「説明資料(第1稿)」への委員からの利水に関する質問と意見に対して回答があった。その後、進め方について委員による意見交換が行われた。主な意見は以下の通り。

- ・ 議論の進め方として、河川管理者との質疑応答をする前に説明資料(第1稿)に関してそれぞれ委員が感じていることを話し合い、考えや認識を共有したほうがよいのではないか。特に水需要管理という言葉のイメージを委員間で統一する必要がある。
- ・ 利水の理念転換など本当に実現できるのか、河川管理者からみた「提言」への意見を聞かせてもらいたい。できないところはどこかなど、その辺の整理から始めた方がよい。
- ・ 説明資料に記されている内容は、水需要管理の第一歩だろう。水需要管理を実現させるためには、経済的手法を取り入れる必要がある。そこへ到達するためのステップも含めて計画に盛り込まれた方がよい。
- ・ これまで水の供給管理を主として行ってきた河川管理者が、これから水需要管理の立場で業務を行っていいのか、行おうとされているのか、その部分から議論すべきではないか。  
回答となっているかどうか分からないが、提言の受け止め方としては、水需要管理を川との関連でとらえ、水需要そのものを減らすのではなく、川からの取水量を減らすことと捉えている。また、料金政策による需要の抑制等は、河川管理者に提言されても難しいのではないかと感じている。(河川管理者)
- ・ 各委員が、利水の理念転換において、供給側の立場である河川管理者がどのような役割を果たせば、提言の内容を実現できるのかを具体的に考え、部会で議論すべきではないか。
- ・ 河川管理者は、水需要の予測データをできるだけ早く出してほしい。提言内容についてでき

ないことや、その理由を教えてください。それを参考に、誰がどうしたらよいか実現方法について議論をする必要がある。(委員長)

- ・資料3-3には、ダムに関する論点が抜けているのではないか。

一般傍聴者からの意見聴取

傍聴者1名より、「河川管理者が水需要の精査をされている、とのことだが、各自治体の予測などまでしっかり踏み込んで精査をお願いしたい。また、委員会では湧水（特に平成6年の湧水）について議論すべき」との発言があった。

以上

このお知らせは委員の皆様にご会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」、詳細については「議事録」を参照下さい。